



「初日の出」(撮影：名誉院長 山口淳正)

目次

●ーごあいさつー	2
●ー活動報告ー	3
●ー職種紹介ー 「認定看護師」	6
●ー随筆ー	7
●ーご案内ー	8
●ーアクセスのご案内ー	10

ごあいさつ



鹿児島市医師会病院
院長 園田 健

あけましておめでとうございます。医師会病院の連携各医療機関の皆様、輝かしい新たな年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて私はかねてより地域医療を効率よく推進するためには、病院医師・在宅医師・看護師・介護福祉士・ケアマネージャー・臨床心理士・理学療法士など多くの専門職能を有した皆さんがなるべく密に話あえる場を持つことが大事であると申し続けてまいりました。

遅ればせながら連携施設との連絡会を、昨年8月2日に病院・診療所関連の部を、続きまして10月20日に在宅療養支援施設の部をそれぞれ開催することができました。ようやく第一歩を踏み出すことができた思いであります。その節はご多忙の中、多数ご参加賜りまして誠にありがとうございます。改めて紙面を借りましてお礼申し上げます。

こうして顔の見える関係が構築され、双方向の医療がさらにスムーズに運ぶものと期待して

おります。

さて、今年は医療と介護の同時診療報酬改定が行われます。報道によりますと、マイナス改定は避けられず、医療機関にとりましては経営に難渋することが予想されますが、こんな時こそ、皆様と共に手を取り合って、地域住民の医療ニーズにお応えできるよう、努力して参りたいと考えております。

当院は急性期から地域包括ケア更には緩和ケアと、きれ目のない医療を提供してまいりました。後方支援病院の登録患者数も順調に伸び続けております。不都合な点などございましたら連携室をご利用いただきまして、忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

さらに有機的な連携が構築できますことを願っております。今後とも末永くご支援くださいますようお願いいたします。



活動報告



鹿児島市医師会病院
診療部長 大迫政彦

鹿児島市医師会病院は平成27年6月から在宅療養後方支援病院の登録を開始し、平成29年12月までに537名が登録されました。通常は「かかりつけ医」の先生方に在宅医療を受けている登録患者様の病状が急変し入院治療が必要となった場合、365日24時間いつでもお受けしております。登録開始以降2年半で、既に20名の患者様が緊急入院されています。

これまで当院の連携室スタッフと各施設のスタッフの皆様が個別訪問やランチミーティングなどで連携を図って参りましたが、今回初めての試みとして平成29年10月20日第1回鹿児島市医師会病院在宅医療支援施設連絡会を開催致しました。会員施設からは医師42名、看護師8名、ソーシャルワーカー4名など合計62名の出席を頂き、当院からは院長以下21名が参加し、日頃は触れあうことの少ない多くの当院スタッフと連携を深める機会となりました。

参加された皆様方には、急性期病棟・地域包括ケア病棟・緩和ケア病棟の運用状況、ならびに在宅療養後方支援登録患者の現況報告をさせて頂きました。平成29年10月時点で登録患者数は465名（男158名、女307名）、平均年齢は84.0歳でした。支援・介護の内容としては要介護4以上の患者様が48%、また認知症の合併が47%などと高齢化の現状を反映していました。登録医療機関は22施設であり、区別では東区6、西区5、中央区4、北区4、南区3などと、市内一円から満遍なく登録を頂いております。緊急でお受けした患者様は急性期から回復した後、各々の病状に合わせて最大60日間地域包括ケア病棟で治療を継続することが可能

となっております。在宅医療への復帰については、ご紹介頂いた施設の皆様と緊密に連携しながら対応させて頂いております。なお地域包括ケア病棟では、ショートステイや検査目的の入院にも対応しております。さらに通常の入院・治療を受けた患者様が退院される場合、紹介医療機関のご意向に添って患者登録支援をさせて頂いております。より一層使い易い、連携し易い後方支援病院として運営して参りますので、是非ご利用をお願い致します。

参加された皆様からは、ITを使った情報提供の仕組みや、これまで以上に円滑な連携・支援の取り組みについてのご要望を頂きました。今回初めての試みとして連絡会を開催致しましたが、多くの皆様に沢山のご意見を頂戴する機会となり、スタッフ一同、心より感謝しております。これからも互いに「顔と顔」・「心と心」が通じる連携を目指して努力して参ります。1月15日からは鹿児島市の委託事業として鹿児島市在宅医療・介護支援連携センターが当院内に開設されました。鹿児島市医師会の会員施設が、より密接に連携しながら、地域医療に貢献できるようにサポートして参りますので、これからも宜しくお願い致します。最後となりましたが、在宅療養後方支援登録についての情報提供や説明会の開催に関するご要望がありましたら、いつでも・どこでもお伺いしますので、ご連絡をお待ちしております。



活動報告

医療連携・相談室室長 前 晶 和 子

平成29年12月12日地域連携研修会を事例検討会として、開催致しました。

平成28年度、退院支援にご協力頂いた連携施設のご担当にご参加いただき、それぞれの現場で行われた支援内容を3事例発表頂きました。事例・発表施設は下記の通りです。

- 事例① 『パーキンソン患者への退院支援』
4階病棟→モーシヨ ン鹿児島→久保内科居宅介護支援事業所
- 事例② 『誤嚥性肺炎を繰り返す患者の在宅支援』
6階病棟→訪問看護ステーションみなみ風
- 事例③ 『ICU・急性期病棟・地域包括ケア病棟で繋いだ退院支援と連携』
地域包括ケア病棟→ケアプランセンターわきだ

参加者内訳

院内	43
居宅介護支援事業所	28
訪問看護ステーション	16
在宅支援診療所	0
前方・後方病院	15
合 計	102

院内・院外が多職種と連携し、退院後の患者の生活を見据えた介入が行えるように、入院早期より患者家族面談や介護支援専門員との情報交換を行っています。地域包括ケアシステムの中で、当院が担う役割は、治療を行い患者様の生活しやすい環境を整え、在宅へ繋げることだと思っております。平成30年度は、診療報酬改定もあり、病院の平均在院日数の短縮や看護必要度・医療区分の厳格化等が予測され、回復に時間を要する高齢者の治療・療養の場が在宅にまで広がっていく事は、必至と考えます。「完全に良くなっていないのに」「治療や処置が必要なのに」と思われる方は多いと思いますが、入院せず出来る治療は外来もしくは、在宅で行う時代なのだと思います。

大変ではありますが、1日でも早く家族の元に帰る事は、家族関係にも必要なことであると感じております。ただ、ご家族に介護の負担をかけすぎないこと、時にはゆっくり休める時間を作ってさし上げる事も重要だと思います。介護スタッフの方々の力をかり、患者家族のお互いを思う気持ちや絆を大切にできる退院支援を行えるよう、今後も努力していこうと思っております。





研修理解度（選択数）

	理解出来た	どちらでもない	理解出来なかった
院内	31	0	0
院外	51	2	0
全体	82	2	0
割合	97.6%	2.4%	0

今後の活動に役立つか（選択数）

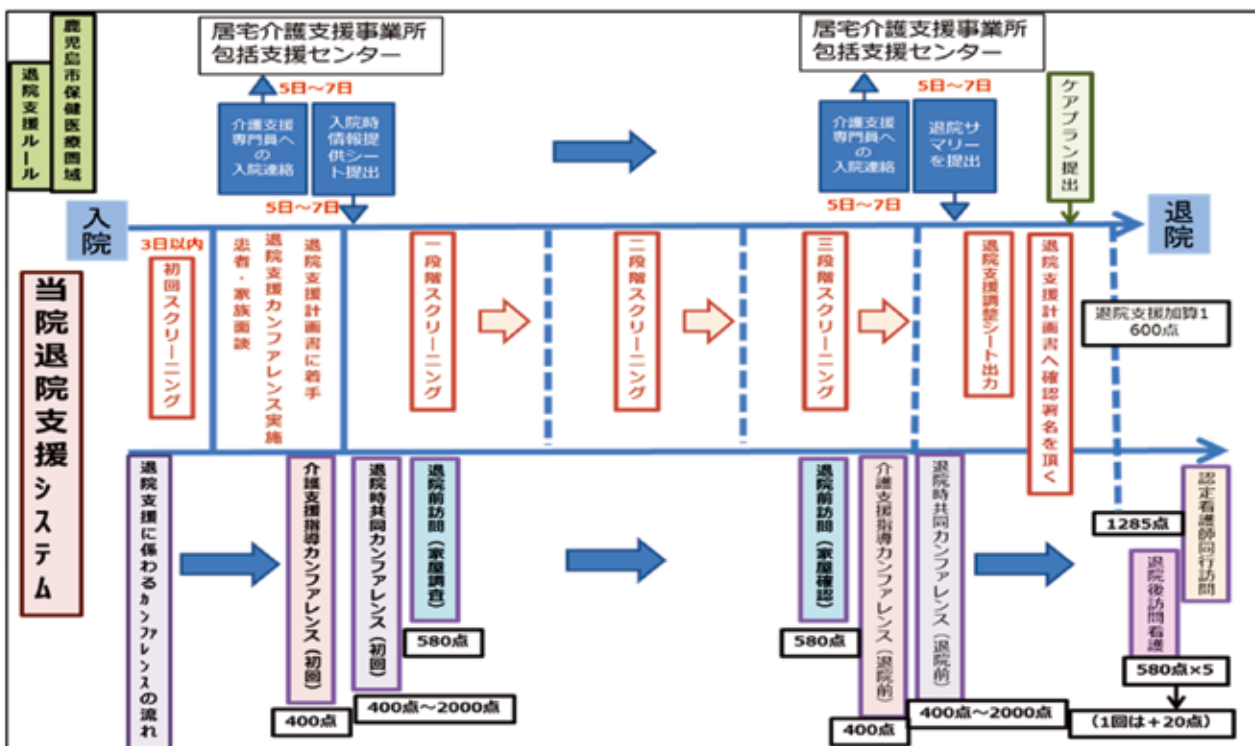
	役に立つ	どちらでもない	役に立たない
院内	31	1	0
院外	46	4	1
全体	77	5	1
割合	91.6%	5.9%	2.5%

今回の事例は、病棟看護師が主体となり普段より行っている退院支援事例でした。次回の研修会では、医療連携相談室の介入が中心となっていく困難事例も含めた事例紹介が出来るようにし、医療と介護の場で問題となっている事を意見交換できる研修会にしていきたいと思います。ご参加頂いた皆様には、貴重なご意見を頂き有り難うございました。今後とも宜しくお願い致します。

アンケート集計の結果

院内・前方病院・後方病院にとっては、参考になったという意見が大半でしたが、介護支援専門員や訪問看護師にとっては日頃より行っている事で、もの足りなさを感じている意見もありました。

当院の退院支援の流れ



職種紹介

認定看護師



鹿児島市医師会病院
手術室認定看護師 前田 龍 弥

私は、2016年に手術看護分野の認定看護師を取得し、手術室で勤務しています。手術看護は「手術を受ける患者を対象に、安全で安心な最良の手術が受けられるように、医療チームの一人として情報を共有し、専門的な知識と技術をもってその役割を果たすこと」(土蔵, 2012)とされています。手術室看護師の役割は、手術室の中だけでの閉鎖的な印象かもしれませんが、そんなことはありません。近年、手術室看護師の専門性は手術室だけではなく、術前・術中・術後という周手術期として捉え、術前外来の実施や術後訪問など、その活躍するフィールドを拡大しています。

今回、『連携だより』への掲載の機会をいただいたので、手術看護認定看護師の役割について紹介したいと思います。

まず、患者への術前訪問を実施することで、慣れない手術や麻酔への不安・緊張が少しでも和らぐように、心理的なサポートを行います。そして、手術合併症を起こさないように、患者の状態を的確に把握して、アセスメントをします。また、手術に関わる医師・放射線技師など

の他職種と連携し、チームマネジメントとしての役割を担います。

他にも手術体位に関連する皮膚・神経損傷予防対策の確認、安全管理(体温・体位管理、手術機材・機器の適切な管理等)を行い、日常の看護を通して、これらの指導を行います。また、手術室のスタッフが科学的根拠に基づいた看護実践が行えるように、勉強会の開催なども行っています。

手術室では、患者とコミュニケーションをはかる機会が少なく、患者の心理面へのケアに難渋する事がありますが、病棟看護師と連携し、不安の緩和に努めています。現在は、術前訪問だけでなく、術後訪問を積極的に実施し、患者から「手術の時、手を握ってくれてありがとう」「優しい笑顔で安心して手術を受ける事ができました」と直接患者の声を聞くことができ、看護のやりがいを感じています。

今後も、患者のニーズに応えられるよう看護を実践し、患者にとって安心・安全な手術が提供できるよう頑張ります。



随筆



鹿児島市医師会病院
循環器内科 柴田 啓佑

「田子の浦に うち出でてみれば 白妙の 富士の高嶺に 雪は降りつつ」 山部 赤人

明けましておめでとうございます。循環器内科の柴田です。冒頭の歌は小倉百人一首にも選ばれた和歌です。小倉百人一首は鎌倉時代の歌人、藤原定家が小倉山荘のふすまの装飾のために飛鳥時代から年代順に百人の歌人の優れた和歌を一首ずつ選んだものが起源とされています。高校時代、「全国大会出場で毎年京都にいけるよ」という先輩の甘い言葉に誘惑され、百人一首部に入部しました。最近映画化もされた漫画「ちはやふる」が流行るはるか前、マイナー部活の典型でした。文化部のイメージと思いますが、ジャージの膝に穴が空くまで素振りの練習をしました。約束通り全国大会には出場しましたが、団体戦ではその年の優勝校と同じグループになりあえなく予選敗退してしまいました。大学時代に二段を取得し、それ以降腕は衰えるばかりですが、正月といえはかるたの季節です。

意外にも百首のうち、新年の歌はありません。初夢は「一富士、二鷹、三茄子」ということで富士山の歌を紹介します。訳すると「田子の浦（現在の静岡県伊豆半島西部のよう

す）に出かけてみると、真っ白に冠雪した高い富士山がみえ、いまでも雪が降り続けている」となります。「白妙の」という富士にかかる枕詞で満を持して富士山登場！というスケール感、さらに「雪は降りつつ」にはしんと降り積もる臨場感があります。突然ですが、古代の人にとって和歌はInstagramだったと思うのです。想像ですが、道なき道を延々と歩いてやっと田子の浦につくと「インスタ映え」するみごとな富士山に出会い、しばらく我を忘れて富士山を見て、詠んだのではないのでしょうか。感動を記録に残したいという想いは飛鳥時代も現代も変わらぬ人の性なのでしょう。

平成も終盤、今年も頑張っていこうと思います。そこで一首

「病院に うち出でてみれば 飛ぶ鳥の 明日香をおもふ 平成の我」

意識：仕事が一段落し、この原稿のために改めてネット検索をして書き上げました。自分にも枕詞を入れた歌が作りたい一心に駆られ、飛鳥時代の和歌と平成のインスタを強引に結びつけてみました。

10/26富士山の初雪化粧のニュースをみた後 医局にて



ご案内

らくらく健康検査のご案内



診療支援部参与 検体検査室長併任 有村 義輝

始めに、当院検体検査室の業務は、10人のスタッフにて遂行し、24時間365日の検査体制にて対応しています。必要な検査データがいつでも即時に報告できる「ノンストップ・リアルタイム」の検体検査室です。また、他施設（市内全病院）の緊急検査において、昼間は医師会検査センターと連携し4台の緊急検体搬送車で対応、夜はタクシーにて24時間迅速に対応しております。さて、今回は、日常検査業務（人間ドック含む）以外の検査として、今回、新たに「らくらく健康検査」を開始いたしましたのでご案内いたします。

らくらく健康検査とは>

みなさまへ、日々生活する中で、健康には留意していることと思います！

みなさまがご存じのように、血液は体の物質や細胞のバランスをとって健康な体を維持しております。しかし、病気になるとこの体

の細胞やタンパク質のバランスが崩れて血液に出てきて異常な数値になります。

そこで、少し体に不安が？と言うあなたへ、自分の体に異常が無いか、どうか？の健康状態の把握と病気の予防のために血液検査を予約なしで実施いたします。これが「らくらく健康検査」です。ぜひ、ご都合のよい時間帯にご自身の血液の状態を調べてみてはいかがでしょうか？

【受付】

当院2階検体検査室受付に直接お申込みください。

【受付時間】

月～金曜日 8時半～16時
※随時受付可能
(但し、水曜日は午後のみ)

【検査所要時間】

約1時間弱で結果出ます

【検査説明】

結果説明し相談をお受けします

(注意) 原則、空腹時に採血いたします。

* 食事されている場合は検査項目の見直しにて対応いたします。

～らくらく健康検査へようこそ～



簡単気軽に健康チェックできます！

予約なしで血液検査できます！

<各検査コース一覧>

基本検査コース

- ①全身見守りコース ②肝臓が気になるコース
- ③腎臓が気になる（CKD）コース④膵臓機能が気になるコース
- ⑤関節リウマチが気になるコース ⑥痛風が気になるコース
- ⑦糖尿病が気になるコース ⑧心臓・血圧が気になるコース
- ⑨甲状腺が気になるコース ⑩貧血が気になるコース

腫瘍マーカーコース

- ⑪男性セット（CEA・AFP・CA19-9・PSA）
- ⑫女性セット（CEA・AFP・CA19-9・CA125）
- ⑬前立腺がんが気になるコース（PSA）
- ⑭子宮・卵巣がんが気になるコース（CA125）

<らくらく健康検査注意事項>

- 1) 本検査は任意の健診であり病気の診断ではなく、健康チェックが目的であります。
- 2) あくまで健康管理のためであることをご了承ください。
- 3) 検査結果は、あくまでもその時の体の血液の状態であります。

アクセスのご案内



車でのアクセス

鹿児島空港から 車で60分
 鹿児島ICから 車で15分
 鹿児島中央駅から 車で15分
 天文館から 車で15分

駐車場あり



バスでのアクセス

【県庁前】バス停下車/徒歩 1分

（路線・時刻はお問い合わせください。）

鹿児島市交通局 ☎099-257-2111
 鹿児島交通㈱ ☎099-247-2333
 南国交通㈱ ☎099-255-2141



鹿児島市電をご利用の場合

【郡元】電車下車/徒歩10分

鹿児島市医師会病院 連携室だより No.31

創刊日：平成17年8月10日

発行月：平成30年2月

発行者：〒890-0064 鹿児島市鴨池新町7番1号

鹿児島市医師会病院 院長 園田 健

担当：医療連携・相談室

TEL：099-254-1125（代表）

FAX：099-254-1308（医療連携・相談室）

ホームページ：http://city.kagoshima.med.or.jp/kasiihp

ご意見などございましたら、お気軽にご連絡ください。